

## 第2次弥富市総合計画 後期基本計画施策評価シート【令和6年度】

### ■総合計画上の位置付け

総合計画 P31～36

基本目標	1	いつまでも住み続けたい安全・安心なまち
施策目標	1	防災対策の推進
関連するSDGs		
		
目指すべきまちの姿		
東日本大震災以降の教訓や南海トラフ地震の被害想定等をふまえ、あらゆる災害に強い安全・安心なまち		

### ■主要施策の取組状況及び評価

主要施策 【PLAN】	関係課	1年間の取組状況及び課題点 【DO】	評価 【CHECK】
(1)総合的な防災・減災体制の確立	防災課	大規模災害に備え、避難所運営を円滑にするために、避難所や防災倉庫などに配備する災害対策用資機材の充実を図りました。ただし、災害発生時に迅速的確な避難指示や津波情報などの緊急情報を伝達するための安全・防災メールについては、海翔高校の再編に伴う募集停止などの理由により、登録者数が減少しました。	C
(2)防災用拠点施設等の充実	防災課	大規模災害に備え、防災倉庫、防災行政無線などの防災施設が災害時に適切に使用できるよう適宜、保守等を行いました。	B
	下水道課	市街地における浸水被害を未然に防ぐため、各地区からの事業申請に基づき、現地調査による優先順位に従って施設整備や修繕、浚渫等による適切な維持管理に取り組みました。	A
	産業振興課	公共施設や個々の排水等を担う土地改良区の運営に対する財政支援や、県と連携した湛水防除事業等、命を守る土地改良事業に対して財政支援等を行うことで事業の推進を図りました。	A
(3)緊急時避難場所の確保及び災害時に備えた各種整備	防災課	民間施設を活用する形で企業等との災害協定を締結し、浸水などの危険が迫っている場合に緊急的・一時的に避難可能な緊急時避難場所の充実を図りました。	A
	福祉課	新たに住宅地図システムを活用し、避難行動要支援者の居場所を可視化した情報を自主防災会に共有しました。また、避難行動要支援者台帳に登録された方の中から個別避難計画の作成に取り組み、地域支援者及び支援事業所と協力しながら自宅から避難所までの経路を確認しました。水防法の避難確保計画については、新たに2か所で策定が完了し、障害者施設の約78%において策定完了となりました。	A
	介護高齢課	水防法の避難確保計画が完成していない高齢者施設に対して、計画策定に向けた助言を行いました。	A
	健康推進課	医療機関の防災訓練に参加することで実施状況の把握に努めました。また、水防法の避難確保計画が完成していない医療機関に対しては、計画策定に向けた助言を行いました。	B
(4)自助・共助による取組の推進と防災意識の醸成	防災課	各学区コミュニティと連携し、大規模な災害を想定した防災訓練を実施しました。各地区の自主防災会が実施する防災訓練については、件数の増加は見られたものの実施していない地域も未だ多いことから、全地区が集う自主防災会全体会や補助金申請の際に引き続き、平時での訓練が災害時に有用であることを伝え訓練実施を促していくことが必要です。また、出前講座や防災ワークショップを実施することで防災意識の醸成に努めました。	C
	児童課	子どもの頃から防災への意識と行動を定着させるため、各保育所において避難訓練などを定期的に行いました。	A
	学校教育課	子どもの頃から防災への意識と行動を定着させるため、各学校において避難訓練及び防災講座を実施しました。また、小学校4校の6年生を対象に実施した合同防災キャンプでは、各種企業・団体や愛知学院高校と連携することで、子どもたちがいつ起こるか分からない災害に備え、地域の中で自分ができる役割を考え実行へ移す能力の育成と、地域防災意識の醸成を図ることができました。	A
(5)建築物の耐震診断及び改修等の支援	都市整備課	令和6年度は耐震診断の件数はあったものの、耐震改修は0件と実績がありませんでした。今後は更なる普及啓発活動を行い、件数増加に努めます。	C
	防災課	令和6年度は実績がありませんが、引き続き、南海トラフ地震等に備えて家具の転倒防止器具取付事業に対して支援を行っています。今後も引き続き、市民に対する周知と支援の継続に努めていきます。	A
(6)連携体制の強化	防災課	近隣自治体を始め、県外の自治体とも災害時における相互応援に関する協定を締結しています。また、災害による浸水被害のおそれがある場合に備え、広域避難が可能となるよう愛知学院大学と連携協定を締結しております。さらに、海南こどもの国におけるゼロメートル地帯広域防災活動拠点の整備を県が実施主体となって実施しています。今後も浸水被害等に備え、関係機関等との連携強化に努めていきます。	A
(7)業務継続体制の整備	防災課	業務継続計画（BCP）に基づき福祉避難所にリチウムイオン蓄電池を配備し、令和10年度の目標値を達成することができました。	A

### ■主要施策に関連する成果指標の達成度

【達成度】◎：目標値超過を見込む、○：目標値同等を見込む、△：目標値は達成困難、—：把握が困難

成果指標	単位	現状値	各年度の実績値【DO】					目標値	達成度 【CHECK】
		令和4年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和10年度	
(1)安全・防災メールの登録者数	人	5,285	5,079					6,500	△
(2)県営地盤沈下対策事業による幹線排水路の再整備延長	km	4.7	5.4					9.5	○
(3)津波・高潮緊急時避難場所の指定箇所数	か所	58	75					75	○

(3)住宅地図とリンクした個別避難計画策定数	件	0	4					15	○
(4)防災訓練を実施した自主防災組織の数	団体	17	23					60	△
(5)民間木造住宅耐震改修費等補助事業利用戸数	戸	27	27					65	△
(7)災害対策用リチウムイオン蓄電池の数	個	7	9					8	◎

### ■主要施策に関連する実施計画事業の評価

【評価】 必要性・妥当性・有効性・効率性の評価観点において課題がない場合は★（最大評価：★★★★）

事業名 【PLAN】	事業費 【DO】	評価 【CHECK】	この1年間の成果を踏まえた今後の進め方 【ACTION】	方向性
(1)災害対策事務事業	1,281	★★★★	大規模災害に備え、引き続き避難所や防災倉庫などに災害対策用資機材を計画的に配備していきます。	拡充
(1)安全・防災メール発信事業	1,782	★★★	災害発生時に迅速に緊急情報を伝達することにより、適切な避難行動の促進に繋がります。今後も周知を進めることが必要と考えられます。	継続 (改善)
(2)防災施設管理事業	5,986	★★★★	大規模災害に備え、防災倉庫、行政防災無線などの防災施設の適切な管理を実施していきます。	継続 (現状維持)
(2)排水路管理事業	52,242	★★★★	今後も各地区からの事業申請に基づき、現地調査を行い、優先順位を付け適切に維持管理を行います。	継続 (現状維持)
(2)県営地盤沈下対策事業（排水路事業分）	44,709	★★★★	農業用排水施設に対し、継続的に財政支援等を行うことで事業を推進し、農業基盤整備の充実を図る必要があります。	継続 (現状維持)
(2)県営湛水防除事業	1,040	★★★★	排水機場整備事業に対し、継続的に財政支援等を行うことで事業を推進し、農業基盤整備の充実を図る必要があります。	継続 (現状維持)
(2)排水機維持管理事業	33,528	★★★★	弥富市内のほとんどが海抜「ゼロメートル地帯」であり、公共施設（弥富市道含む）や個々の宅地等の排水は自然に排水されることは無いため、土地改良区が運営管理する農業用排水機場により伊勢湾等へ強制排水しています。そのため、これら（公共施設、個々の宅地等）の排水等を担っている土地改良区の運営に対して、引き続き補助金による財政支援を行うことが必要です。	継続 (現状維持)
(3)緊急時避難場所確保事業	0	★★★★	現状は人口に対し緊急時避難場所の面積は確保できていますが、地区により隔りがあるため、更なる確保を進めていく必要があります。	拡充
(3)避難行動要支援者名簿・個別避難計画整備事業	451	★★★★	住宅地図システムを活用し、自宅から避難所までの経路を可視化した個別避難計画の作成に取り組んでいます。引き続き、地域支援者及び支援事業所と協力しながら、実態に即した個別避難計画の作成を推進していきます。	継続 (現状維持)
(3)避難確保計画策定促進事業	0	★★★★	要配慮者利用施設における避難確保計画策定済の施設は、52か所となり、約68%の施設で策定完了となりました。引き続き、未策定の施設に対して計画策定の促進を図っていきます。	継続 (改善)
(4)自主防災組織活動支援事業	4,180	★★★	引き続き地元要望を聞きながら、地域に合わせた防災資機材の提案や防災訓練の内容調整を検討しながら進めていきます。	継続 (改善)
(5)民間木造住宅耐震改修費補助事業	944	★★★	住宅の耐震化についての関心は高いものの、耐震工事をするなら建て替えを希望する人が多く、耐震化の進捗率は上がらないのが実情ですが、事業を継続し、更なる普及啓発活動に努めることが妥当と考えられます。	継続 (改善)
(7)業務継続体制整備事業	715	★★★★	令和5年度から福祉避難所へ計画的に配備しています。引き続き、配備する数量、場所等を検討していく必要があります。	拡充

### ■主要施策の今後の進め方

この1年間の成果を踏まえた今後の進め方 【ACTION】

災害発生時の避難行動に時間を要する避難行動要支援者が迅速に避難できるよう、住宅地図システムを活用した避難行動要支援者名簿や個別避難計画の整備を行うとともに、要配慮者利用施設の避難確保計画の策定を促進していきます。また、市民の防災意識の向上等を図るため、学区の防災訓練や自主防災会の支援を行います。大雨災害等による浸水対策については、雨水排水施設等を良好な状態に保つため、市街地排水路の維持・整備及び市内の雨水排水を担う基幹排水施設の整備を行うことで適正な管理に努めます。

## 第2次弥富市総合計画 後期基本計画施策評価シート【令和6年度】

### ■総合計画上の位置付け

総合計画 P37～38

基本目標	1	いつまでも住み続けたい安全・安心なまち
施策目標	2	消防・救急体制の強化
関連するSDGs		
		
目指すべきまちの姿		
緊急時に迅速で的確な対応ができる消防・救急体制が整備されている安全・安心なまち		

### ■主要施策の取組状況及び評価

主要施策 【PLAN】	関係課	1年間の取組状況及び課題点 【DO】	評価 【CHECK】
(1)消防団の充実	防災課	消防団員の新規加入による増加は難しい状況が続いておりますが、引き続き消防団活動の充実を図るため様々な想定訓練や研修等を実施し、消防団の能力や資質の向上へ努めます。	A
(2)消防設備の整備充実	防災課	消火栓の新設や消防施設の修繕工事等による適切な維持管理、また、各自治会の消防設備の整備に対する財政支援を実施することで消防水利の整備充実を図りました。	B
(3)常備消防・救急体制の充実	防災課	海部南部消防組合職員の資質向上や施設・設備の充実等を目的に、常備消防や救急体制整備に対して負担金を支出しました。今後は海部南部消防組合新庁舎建設工事に伴う建設負担金を支出するとともに、建設費償還分の負担金を支出する必要があります。	A
(4)自主防災組織の活動支援	防災課	補助金申請の際に自主防災組織には引き続き、平時での訓練が災害時に有用であることを伝え訓練実施を促していくことが必要と思われる。	C
(5)市民の救命知識と技術の向上	防災課	引き続き海部南部消防組合と連携して市民向けの救命講習を実施することで、市民の救命知識と技術の向上を図りました。また、市内コンビニエンスストアにAEDを継続設置するとともに、市ホームページにおいて「あいちAEDマップ」を掲載し、周知を図りました。	B

### ■主要施策に関連する成果指標の達成度

【達成度】◎：目標値超過を見込む、○：目標値同等を見込む、△：目標値は達成困難、—：把握が困難

成果指標	単位	現状値	各年度の実績値【DO】					目標値	達成度 【CHECK】
		令和4年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和10年度	
(2)消火栓の数	基	1,217	1,220					1,268	○
(4)防災訓練を実施した自主防災組織の数(再掲)	団体	17	23					60	△
(5)救命講習の受講者数	人	278	279					800	△

### ■主要施策に関連する実施計画事業の評価

【評価】必要性・妥当性・有効性・効率性の評価観点において課題がない場合は★(最大評価：★★★★)

事業名 【PLAN】	事業費 【DO】	評価 【CHECK】	この1年間の成果を踏まえた今後の進め方 【ACTION】	方向性
(1)消防団運営事業	14,300	★★★★	引き続き訓練を実施するとともに、市民の安全安心を守るために様々な想定訓練を実施し、消防団活動を進めていきます。	継続 (現状維持)
(2)消防設備事業	1,650	★★★★	引き続き地元要望を聞きながら消火栓新設を実施するとともに、市民の安全を確保するために最適な場所への設置を検討しながら進めていきます。	継続 (現状維持)
(3)海部南部消防組合負担金事業	723,135	★★★★	令和7年度中に海部南部消防組合新庁舎建設工事が完了します。今後も引き続き、海部南部消防組合の職員の資質向上や施設・設備の充実等を目的に、常備消防や救急体制整備に対する負担金を支払う必要があります。	継続 (現状維持)
(4)自主防災組織活動支援事業(再掲)	4,180	★★★	引き続き地元要望を聞きながら、地域に合わせた防災資機材の提案や防災訓練の内容調整を検討しながら進めていきます。	継続 (改善)
(5)救命講習普及啓発事業	0	★★★	引き続き市民の救命知識と技術の向上を図るため、市民への普及啓発に努めるとともに、市民がより参加しやすい実施方法を検討する必要があります。	継続 (改善)

### ■主要施策の今後の進め方

この1年間の成果を踏まえた今後の進め方【ACTION】
災害発生時に共助として、消防団や自主防災会の活動が非常に重要となることから、消防団員の資質の向上、自主防災会の結成促進及び地域に適した防災資機材等の整備促進を図ります。また、整備した資機材の取扱い方法や作動確認を含む防災訓練を実施し、減災に努めていきます。

## 第2次弥富市総合計画 後期基本計画施策評価シート【令和6年度】

### ■総合計画上の位置付け

総合計画 P39～42

基本目標	1	いつまでも住み続けたい安全・安心なまち
施策目標	3	防犯・交通安全対策の推進
関連するSDGs		
		
目指すべきまちの姿		
誰もが犯罪や交通事故等に遭いにくい、安全・安心な環境が保たれたまち		

### ■主要施策の取組状況及び評価

主要施策 【PLAN】	関係課	1年間の取組状況及び課題点 【DO】	評価 【CHECK】
(1)防犯に関する啓発等の推進と自主防犯活動の推進	市民協働課	防犯ボランティア養成アカデミーを開催するなど、警察や自主防犯団体と連携して、まちの防犯診断など防犯啓発活動を実施することにより、市民の防犯意識の高揚を図りました。	A
(2)防犯環境の整備	市民協働課	L E D防犯灯の設置、自治会等への防犯カメラ設置や特殊詐欺対策機器の購入に対する補助を行い、犯罪の未然防止、安全確保につながりました。今後も必要な場所にL E D防犯灯設置や防犯カメラの設置や特殊詐欺対策機器の購入に対する補助を行います。	A
(3)交通安全に関する啓発等の推進	市民協働課	各季の交通安全運動期間をはじめ、警察と連携して交通安全啓発を行いました。また、自転車乗用ヘルメット着用の努力義務化や保険加入義務化の周知を行い、高齢者等の自転車用ヘルメット購入に対する補助を行いました。	A
	児童課	保育所保護者で組織する「きんぎょクラブ」により、毎月20日の交通指導と運動会での啓発活動（交通安全ゲーム）を行いました。	A
	学校教育課	児童・生徒が安全安心に登下校できるよう、引き続き、新小学1年生に通学用ヘルメット・安全ブザーを配付しました。また、警察と連携して児童・生徒に対して交通安全教室を開催し、自転車運転や歩行者マナーなどの指導を行い、登下校時にはスクールガードと連携し、地域との協働による交通安全・防犯対策に取り組みました。通学路の安全対策については適切に点検を行い、児童・生徒が安全に登下校できる環境整備に努めました。	A
(4)公共交通の利便性向上	市民協働課	市民生活に溶け込んだ移動手段を確保しながら、より効率的な運行体制にするため、運行ダイヤやバス停の見直しを行い、コミュニティバスの利便性向上に努めました。しかし、高齢化や運転免許返納者の増加等の課題に対応するためには、デマンド交通の実証運行を踏まえた上で、更なる利便性の向上を図る必要があります。	B
(5)交通安全施設の整備	土木課	カーブミラーや道路照明等の安全点検を実施し、必要に応じて危険箇所の対策を行いました。また、市道についてはカーブミラーの設置及びカラー塗装の整備等により安全確保を図りました。	A

### ■主要施策に関連する成果指標の達成度

【達成度】◎：目標値超過を見込む、○：目標値同等を見込む、△：目標値は達成困難、—：把握が困難

成果指標	単位	現状値	各年度の実績値【DO】					目標値	達成度 【CHECK】
		令和4年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和10年度	
(1) SNS等を活用した注意喚起情報等発信回数	回	41	92					50	◎
(2) L E D防犯灯の設置数	基	5,884	5,988					6,500	○
(4) コミュニティバス等利用者数	人	73,828	75,939					100,000	△

### ■主要施策に関連する実施計画事業の評価

【評価】必要性・妥当性・有効性・効率性の評価観点において課題がない場合は★（最大評価：★★★★）

事業名 【PLAN】	事業費 【DO】	評価 【CHECK】	この1年間の成果を踏まえた今後の進め方 【ACTION】	方向性
(1)安全・防災メール発信事業	0	★★★★	特殊詐欺、自動車盗難が増えているため、今後も地道な注意喚起を継続していく必要があります。	継続 (現状維持)
(2) L E D防犯灯設置事業	23,313	★★★★	年間の新規設置も大切ではありますが、令和8年度をもってL E D防犯灯の10年間のリース契約が切れるため、既設L E D防犯灯の保守管理を適切に行い設置台数を維持すべきか、改めて10年リース契約の更新を行うか早急に検討していく必要があります。	継続 (現状維持)
(4) コミュニティバス運行事業	114,927	★★★	高齢化や運転免許返納者の増加により、交通弱者に対する交通手段の確保が喫緊の課題ですが、市内全域におけるデマンド交通の実証実験を通じて、課題が解決されるか検証していきます。	継続 (改善)
(5)道路改良事業・道路維持事業	210,753	★★★★	今後も、市民の要望が大きい道路整備や安全性に問題のある箇所の道路整備を中心に進めていきます。また、多額の費用が必要となりますが、鎌倉踏切・鎌倉308号線の歩道設置に向けた事業を進めており、踏切改良工事・鎌倉1号橋の架け替え工事などを計画しています。	継続 (現状維持)

### ■主要施策の今後の進め方

この1年間の成果を踏まえた今後の進め方【ACTION】
いつまでも住み続けたい安全・安心なまちづくりのため、安全・防災メールを有効に活用するとともに、行政・地域・警察が連携して防犯活動を行います。引き続き、防犯灯のL E D化及び維持管理を行うほか、自治会における防犯カメラ設置への補助を実施していきます。また、デマンド型交通（社会実験）導入後の検証結果を踏まえ、関係者等の意見を取り入れながら、地域公共交通の継続的な見直し及び利便性の向上に努めてまいります。

## 第2次弥富市総合計画 後期基本計画施策評価シート【令和6年度】

### ■総合計画上の位置付け

総合計画 P43～44

基本目標	1	いつまでも住み続けたい安全・安心なまち
施策目標	4	環境衛生の充実
関連するSDGs		
		
目指すべきまちの姿		
循環型社会づくりの取組が進み、快適で清潔なまち		

### ■主要施策の取組状況及び評価

主要施策 【PLAN】	関係課	1年間の取組状況及び課題点 【DO】	評価 【CHECK】
(1)ごみ収集・処理体制の充実	環境課	海部地区環境事務組合による広域連携のもと、計画に沿った効率的なごみの収集やごみ、し尿及び浄化槽の汚泥を適正に処理しました。引き続き、ごみの分別の更なる徹底を啓発し、ごみの減量化、資源化等、市民の環境意識の向上を図ります。	A
(2)3R運動の促進	環境課	生ごみについては堆肥化を推進するために、生ごみ処理容器の設置費用に対して財政支援を行い、資源ごみについては資源物の集団回収などを行うことにより、自主的な3R運動に対する市民意識の醸成を図りました。また、市民への啓発により、小型廃家電、使用済み乾電池の分別回収量が増えました。	A
(3)ごみの不法投棄対策の推進	環境課	監視・パトロールの実施により、投棄物の早期発見、早期回収を行うとともに、自治会等がボランティアで行う不法投棄物の清掃活動に対して、ごみ袋の支給とごみの収集を行うことで、不法投棄ごみの減少を図りました。また、広報・啓発活動の一環として、自治会に対して不法投棄禁止等の啓発看板の支給を行いました。	A
(4)浄化槽の適正管理の指導	環境課	浄化槽の適切な維持管理の必要性について、市広報誌やホームページを活用して啓発を行いましたが、前年度までは上昇傾向にあった浄化槽法第11条法定検査受検率が減少に転じました。	A
(5)火葬場の運用	環境課	人生の終焉の場に相応しく、市民の利便性を重視した施設運営を行うため、施設や設備を快適で安全な状態に保ち続けることができるよう、火葬炉設備点検や火葬炉の台車耐火物取替等補修工事を行いました。	A

### ■主要施策に関連する成果指標の達成度

【達成度】◎：目標値超過を見込む、○：目標値同等を見込む、△：目標値は達成困難、—：把握が困難

成果指標	単位	現状値	各年度の実績値【DO】					目標値	達成度 【CHECK】
		令和4年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和10年度	
(1)1人1日当たりの家庭系ごみ排出量	g	536	511.8					495.3	◎
(3)不法投棄されたごみの回収量	kg	11,450	9,420					11,000	○
(4)浄化槽法第11条法定検査受検率	%	29.5	26.6					35	○

### ■主要施策に関連する実施計画事業の評価

【評価】必要性・妥当性・有効性・効率性の評価観点において課題がない場合は★（最大評価：★★★★）

事業名 【PLAN】	事業費 【DO】	評価 【CHECK】	この1年間の成果を踏まえた今後の進め方 【ACTION】	方向性
(1)海部地区環境事務組合事業	364,347	★★★★	海部地区環境事務組合による広域連携のもと、計画に沿った効率的なごみの収集やごみ、し尿及び浄化槽の汚泥を適正に処理しました。引き続き、ごみの分別の更なる徹底を啓発し、ごみの減量化・資源化等に対する市民の環境意識の向上を図ります。	継続 (現状維持)
(2)資源ごみ回収手数料事業	3,676	★★★★	資源物回収手数料事業については、3R運動に対する市民の意識を高め、ごみの減量化・資源化を促進するため、事業を継続していくことが必要です。	継続 (現状維持)
(3)不法投棄廃棄物等対策事業	4,951	★★★★	監視・パトロールを実施し、投棄物の早期発見、早期回収を行いつつ、警察との連携を継続して取り組みます。ボランティアによる不法投棄物の清掃活動については、ごみ袋の支給とごみの収集を継続して実施します。また、自治会からの要望による不法投棄禁止等の啓発看板の支給についても継続して実施します。	継続 (現状維持)
(4)広報・啓発活動事業	13	★★★★	浄化槽の適切な維持管理の必要性について、市広報誌やホームページを活用して更なる周知・啓発に努めます。	継続 (現状維持)
(5)市営火葬場管理事業	20,918	★★★★	人生の終焉の場に相応しく、市民の利便性を重視した施設運用を図ることを目的として、施設や設備を快適で安全な状態に保ち続けるよう、維持管理を行います。	継続 (現状維持)

### ■主要施策の今後の進め方

この1年間の成果を踏まえた今後の進め方【ACTION】
ごみの減量やリサイクルなどに対する市民一人ひとりの意識の向上を図るとともに、快適で安全な生活環境を維持するため、ごみの適正処理に関する様々な取り組みを進めていきます。

## 第2次弥富市総合計画 後期基本計画施策評価シート【令和6年度】

### ■総合計画上の位置付け

総合計画 P45～47

基本目標	1	いつまでも住み続けたい安全・安心なまち
施策目標	5	環境対策の推進
関連するSDGs		
		
目指すべきまちの姿		
生活に身近な環境から地球環境に至るまで、誰もが環境に配慮した取組を実践し、環境の負荷が少ない快適できれいなまち		

### ■主要施策の取組状況及び評価

主要施策 【PLAN】	関係課	1年間の取組状況及び課題点 【DO】	評価 【CHECK】
(1)市民・事業者の環境保全活動の促進	環境課	ごみの減量やリサイクル、省エネルギーなど日常生活における環境保全活動を行いました。環境への負荷を減らすためには、市民・事業者・行政の協力が不可欠であるため、今後も啓発活動及び協力要請に努めます。	A
(2)環境自治体の形成に向けた活動の推進	環境課	管理する施設において、節電・クールビズ・エコドライブ等の啓発に努めました。さらに、二酸化炭素排出量の更なる削減を目指すため、今年度において公共施設のLED化を実施しました。今後も二酸化炭素排出量を数値化し、より一層の削減に繋がる取組の検討に努めます。	A
(3)環境汚染対策の推進	環境課	市内7箇所の河川の水質検査を実施し、結果をホームページで公表することにより、市民の水質汚濁への意識啓発に努めました。また、国・県・関係団体等と連携し、公害防止対策に努めました。	A
(4)外来生物による被害防止の推進	環境課	外来生物については、国・県及び関係機関と連携し、生息調査や防除活動を定期的に継続して行うことで自然環境を保護しました。また、ホームページ等で市民へ外来生物問題に対する意識啓発に努めました。	A
(5)地盤沈下の観測・地下水位の調査	環境課	地盤沈下や地下水位の調査を毎月実施しました。引き続き、県と連携して調査を実施し、地盤沈下の状況を確認していきます。	A
(6)犬の登録・狂犬病予防注射の推進	環境課	動物の適正な飼育啓発に努めました。狂犬病予防注射については、予防注射通知ハガキの送付や、広報で周知しました。	B
(7)環境に関する取組のための指針の策定	環境課	人と自然が共生する豊かなまちづくりを目指して環境基本計画の策定について調査を進めます。	B
(8)熱中症対策の推進	環境課	冷房を備えた公共施設をクーリングシェルターとして指定し、熱中症特別警戒アラート発表時などに一般へ開放しています。また、民間施設におけるクーリングシェルターの募集を行い、市内商業施設をクーリングシェルターとして指定しました。	A

### ■主要施策に関連する成果指標の達成度

【達成度】◎：目標値超過を見込む、○：目標値同等を見込む、△：目標値は達成困難、—：把握が困難

成果指標	単位	各年度の実績値【DO】						目標値 令和10年度	達成度 【CHECK】
		令和4年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
(3)河川の水質汚染濃度(宝川)(BOD)	mg/l	5.5	11					10.0以下	○
(6)狂犬病予防注射の接種率	%	72.6	75.15					75	◎

### ■主要施策に関連する実施計画事業の評価

【評価】必要性・妥当性・有効性・効率性の評価観点において課題がない場合は★(最大評価：★★★★)

事業名 【PLAN】	事業費 【DO】	評価 【CHECK】	この1年間の成果を踏まえた今後の進め方 【ACTION】	方向性
(3)河川水質検査事業	138	★★★★	豊かな自然環境を将来に承継するには、自然の基盤である生物多様性の保全を推進する必要があります。そのため、引き続き市内7箇所の水質検査を行い、市民への公表及び河川管理者への周知を実施します。	継続 (現状維持)
(6)狂犬病予防事業	986	★★★★	狂犬病予防のため、獣医師と連携を図り、登録や予防注射の普及啓発、登録者への注射の案内などを行い、引き続き狂犬病予防注射接種率の向上に努めていきます。	継続 (現状維持)

### ■主要施策の今後の進め方

この1年間の成果を踏まえた今後の進め方【ACTION】
良好な環境の中で快適に生活ができるよう、環境保全に対する意識啓発や自然エネルギーの推進、ごみの発生抑制と再使用の推進など、総合的な環境施策を推進し、環境にやさしいまちづくりへの取組を進めていきます。